

## 高齢協連合会ニュース【No.176】

～「新しい協同運動」を進めよう～

日本高齢者生活協同組合連合会 会長理事

ささえあいコミュニティ生活協同組合新潟 代表理事 高見 優

昨年ノーベル医学・生理学賞を受賞した大隈良典さんが、「『役に立つ』が社会をダメにする」と発言しました。目先の利益優先の研究費配分を批判し、基礎的な科学研究の重視を訴えたものです。

先日発表された2017予算案は社会保障費の自然増分2割強をカットする内容で、これを子どもの成長に例えれば身長・体重等の伸びを無理やり抑えるものです。超高齢社会で自然増となる医療・福祉・年金など生きるために不可欠な社会保障費が削減され、私たち高齢協の福祉事業経営も困難になるでしょう。

現代の諸困難は世界史的なもので、どの国、社会においても先が見通せない状況だと思えます。そういう時代であるからこそ、私たちは地に足を着け、仲間と共に支え合い、事業・運動を一步一步着実に進めることが重要です。

昨年逝去された市川英彦前会長理事が私たちに託された「いのちの 協同 平和への道」の理念を共有し「新しい協同運動」を本格的に進めるときだと思えます。

役に立つ・立たない、つまり効率優先の経済至上主義の価値観に対抗するのが、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、そして連帯の価値を基礎におく協同組合です。

すべての市民が、主体的に楽しく生き、働くことが保障され、一方的に支援される関係でなく誰もが当事者として対等・平等に支え合う開かれた関係を、地域を中心に築いていきたい。さらにそれを、異なる地域や国との間でも同様に、支え合う平和的な関係を構築していきましょう。

そのためにも、全国の会員・組合員みんなで支え合ってゆきましょう。

本年も、どうか宜しくお願いします。